

献呈のことば

学長 谷 岡 一 郎

今年度、退職される先生方は、明石芳彦先生、加藤司先生、下山晃先生、前畑安弘先生（五十音順）の四名です。コロナ・ウイルス拡大の影響などもあって、例年のような退職のお祝いの会を開くことができませんでした。せめて、例年にも増して内容の充実した退職記念号をお送りすることで、ご勘弁いただきたいと思います。

明石先生は皆さまもご存じのように、「温厚」という文字を絵に描いたような方です。主として関西の国公立大学を中心に教えておられましたが、その知名度は全国区、いやインターナショナルなレベルです。「産業経済論」、「アントレプレナーシップ論」などの分野で、多くの著書・論文がありまして、特に「イノベーション」、「ベンチャー」、「コミュニティ（アメリカ）」といったキーワードのいくつかの御著書は高い評価を受けています。中小企業研究奨励賞の本賞を一度ならず受けられました。

加藤先生は「流通システム論」、「地域商業論」を専門とされています。大学学部や院の会合でよくお見かけしましたが、もうひとつ忘れてならないのは、大阪商業大学でスタートした共同参画研究所でのご活躍です。この新しい研究所での立ち上げ、そして活動に大きな力となっただきありがとうございます。豊富な社会活動歴がそれを物語っていますが、先生は常に弱者の視点でものを考えてこられていました。今後ともよろしく願います。

下山先生は学術面も含め、大阪商業大学の顔とも言ってよい方です。一応「世界史」と「一般経済史」が担当科目でしたが、それ以外に研究対象やご本人の興味が多岐にわたり、多くの著作や論文にそれが顕著に表れています。ご本人からいただいた『世界商品と子供の奴隷』（ミネルヴァ書房）は、誰もが感銘を受けたすごい名著で、私にもまったく新しい（知らなかった）世界を提示してくれました。最近「大商大で私が出会った4人の逸材」というメモをいただきましたが、そのスケールの大きさにビックリしました。留学生の多い下山ゼミでは、世界のリーダーになりそうな逸材が育っているようでうれしく感じています。

もうひとり商大の顔として、35年間学生と向き合っただけのが前畑先生です。大阪商業大学の基礎素養の中心とも言うべき「商法」の専門家で、その中でも「運送法」、「企業法」、「海商法」etc.と多くの知見を持たれる先生です。業績も高いレベルにありますが、特筆すべきことは前畑先生の愛校心だと思います。その愛校心は学生レベルを超えて近隣地域にも及び、いつもビニール袋を持って小阪周辺のごみを拾っておられました。心の底から尊敬すべき行動です。皆になりかわってお礼申し上げます。

4人のうちのどの方も、若手先生方と比較しても研究意欲が高く、教育にも熱心ですから、今後もキャンパスでお会いする機会は少なくないはずですが、どうか今後ともよろしく願います。

今年度でひとつの区切りとして退官されること、心よりお祝いし、今までのご尽力に感謝申し上げます。先生方の新たな発見・知見が届けられるのを待っています。

